

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370282

研究課題名(和文)シェイクスピア劇の材源・改作とイギリスの帝国化400年の関係についての研究

研究課題名(英文) A Study of the Relationships between the Sources and Adouptations of Shakespeare and 400 years of British Imperialistic Progress

研究代表者

大和 高行 (YAMATO, Takayuki)

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：30253371

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、研究のための基礎的資料の収集・整理をしつつ、研究代表者と分担者全員が参加する研究会での討議を経て、イギリス帝国主義とシェイクスピア劇の材源・改作との相互関係を分析した。研究の最終年度は、これまでの研究成果を精力的に発表した。例として、日本英文学会九州支部第70回大会におけるシンポジウム1イギリス部門「シェイクスピア劇とその材源・改作に見るイギリスの帝国化の諸相」で全員が口頭発表を行った。また、鹿児島近代初期英国演劇研究会(代表：大和高行/小林潤司、杉浦裕子、山下孝子、丹羽佐紀)訳『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』、九州大学出版会、i-559(2018)を上梓した。

研究成果の概要(英文)：The members of this project team accumulated and organized a critical corpus of materials to investigate the interrelation between British imperialism and Shakespeare's plays, their sources and adaptations. In the last year of our research project we extensively published the results of our quest in a panel at the annual meeting of the Kyushu branch of the English Literary Society of Japan (ELSJ), "British Imperialism Reflected in Shakespeare's Plays, their Sources and Adaptations", and a volume of Adaptations of Shakespeare's Plays in the Restoration Period (Kyushu University Press, 2018).

研究分野：人文学

キーワード：イギリス帝国主義 シェイクスピア劇 材源 改作 エリザベス朝 王政復古期

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来のイギリス帝国史研究 / 文学研究において、イギリスの劇が帝国主義や英国らしさの形成に果たした役割を総合的かつ詳細に論じた研究はなかった。演劇テキスト・演技論・劇評とイギリス帝国史の関係は、個別の劇作家の特定作品に関する研究にとどまり、相互の関係性が十分に考察されることはなかった。

(2) 本研究開始時に本研究会は、大和高行・小林潤司・杉浦裕子「ジョン・レイシー作『スコットランド人ソーニイ』論」(『鹿児島大学大学院人文社会科学部研究紀要 地域政策科学研究』、第7号、2010年、pp. 19-86)〔科学研究費(基盤)C 平成20年～23年の成果〕で、イギリス国内の他者スコットランド人の表象とイギリスの帝国化の関係を考察した。そしてさらに、「王政復古期における『リチャード三世』の改作」(『日本英文学会2011年度支部大会Proceedings』、2012年、pp. 272-73)〔科学研究費(基盤)C 平成20年～23年の成果〕では、リチャード三世の再表象の問題、及び、18世紀のシェイクスピア全集編纂者ニコラス・ロウの『ジェイン・ショアの悲劇』へとつながる、イングランド史劇のジャンルが果たした役割を検討した。このように本研究会は、従来のような短いスパンではなく、長いスパンで、演劇とイギリス帝国主義の相互関係の見直しを様々な視点から行っていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、上記の研究の延長線上にあたるもので、シェイクスピア劇の材源と改作がイギリスの帝国主義化に寄与し、また逆に、イギリス帝国主義がシェイクスピア劇にどのような影響を与えたかを探り、シェイクスピア劇の材源と改作とイギリス帝国化の400年の相互関係を明らかにすることを目的とした。

(2) また、それと並行して、これまで2件の科研費研究課題の共同研究で翻訳・解題の作業を進めた鹿児島近代初期英国演劇研究会メンバーによって、シェイクスピア研究とイギリス帝国史研究の双方に有益となる、シェイクスピア劇の材源・改作テキストの本邦初訳を刊行することを二次目的とした。

(3) 以上のように、本研究は、イギリス帝国化の歴史とシェイクスピア劇の材源と改作の相互関係に着目し、「シェイクスピア」というイデオロギー装置とイギリス帝国主義が結ぶ関係を解明し、その時代背景が「シェイクスピア」にどのように反映されて創造

的言説を作り出したかを考察することを第一の目的とし、シェイクスピア劇の材源・改作テキストの本邦初訳を刊行することを第二の目的とした。

3. 研究の方法

(1) イギリス帝国主義とシェイクスピア劇の材源・改作との相互関係を分析するため、研究代表者と研究分担者が役割分担し、一次資料の収集・整理、二次資料を用いた考察、それに、意見交換に基づく研究の方向性の修正、外部の報告を経て、最終年度での総括に進む計画とした。

(2) シェイクスピア劇の材源・改作テキストの翻訳に関しては、研究代表者と研究分担者が持ち回りで試訳を用意し、全員参加の研究会開催日までに電子メールで事前に配布、研究会の場ではその出来ばえの良し悪しを全員でつぶさに検討した。編集担当者は、関連資料の渉猟に努めつつ、本邦初訳となるテキストの日本語訳の推敲を重ね、注釈・解説を含めた編集作業を行った。

4. 研究成果

(1) 研究期間内に科学研究費補助金による研究成果(注釈・解説付きの訳文など)を複数、随時、紀要やインターネットを通じて広く公に公開した。(下記、主な発表論文等を参照されたい)

(2) 最終年度に日本英文学会九州支部第70回大会シンポジウムを企画し、本研究の成果の一部を社会・国民に還元した。

(3) また、最終年度に『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』を九州大学出版会より上梓した。(同書は英文学史上最も悪名高いネイハム・テイトによるハッピーエンド版『リア王』に加え、コリー・シバーによる『リチャード三世』の改作版、ジョン・レイシーによる『じゃじゃ馬馴らし』の改作『スコットランド人ソーニイ』、ジョージ・グランヴィルによる『ヴェニス商人』の改作『ヴェニスのユダヤ人』を収録。王政復古期シェイクスピア改作戯曲の代表作の本邦初訳に詳細な解説を付した。)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計13件)

小林潤司、最近のシェイクスピアの伝記研究(発表要旨)、2017年鹿児島国際大学大学院国際文化研究科第5回公開研究会 島尾敏雄生誕100年記念 <書くひと>の迷宮 報告書、査読有、1巻、2018年、pp. 6-10

杉浦裕子、Book Review: Richard Dutton, Shakespeare, Court Dramatist (Oxford UP, 2016, *Shakespeare Studies* (The Shakespeare Society of Japan)、査読有、

55号(2017)、2018年、pp. 35-38

丹羽佐紀、Honor or Defamation in Chastity and Fertility: The Paradoxical Effects of Erotic Conversion in *Henry VIII*、*英米文化(日本英米文化学会)*、査読有、48号、2018年、pp. 33-46

丹羽佐紀、『ヴェニス商人』における選択の行為について 運命の女神は不在か、*鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編*、査読無、69巻、2018年、pp. 107-116

丹羽佐紀、『*The Roaring Girl, or Moll Cutpurse*』におけるモルと政権交代期のコミュニティとの関係、*VERBA(鹿児島大学言語文化論集)*、査読無、42巻、2018年、pp. 55-64

杉浦裕子、John Marston, *Antonio and Mellida* の作劇法 再開直後のセント・ポールズ少年劇団での上演事情から、*甲南大学紀要 文学編*、査読無、168巻、2017年、pp. 47-58

大和高行、杉浦裕子、小林潤司、ネイハム・テイト版『リア王一代記』、*鹿児島大学法文学部人文学科論集*、査読無、第84号、2017年、pp. 31-104

小林潤司、杉浦裕子、丹羽佐紀、山下孝子、大和高行、初期近代英国におけるセネカの悲劇『テュエステス』の翻訳(1) ジャスパー・ヘイウッド訳『サイエスティーズ』(1560)の翻訳と注解、*鹿児島国際大学国際文化学部論集*、査読無、第17巻第4号、2017年、pp. 299-310

丹羽佐紀、『*The Tempest*』における対立とは 和解を取り巻く劇的構造、*鹿児島大学教育学部研究紀要*、査読無、第68巻、2017年、pp. 200-215

大和高行、ネイハム・テイト版『リア王一代記』 解説、*鹿児島大学法文学部人文学科論集*、査読無、第84号、2017年、pp. 105-120

小林潤司、『ヴェニス商人』とユダヤ人劇の系譜 サブテキストとしての『ロンドンの三人の貴婦人』、*日本シェイクスピア協会(編) 甦るシェイクスピア 没後400周年記念論集*、査読有、1巻、2016年、pp. 196-216

小林潤司、視ることをめぐる悲劇としての『ジュリアス・シーザー』、第87回大会 Proceedings (付 2014年度支部大会 Proceedings、査読有、No. 124、2015年、pp. 306-307

小林潤司、エクフラシスと演劇的想像力、第87回大会 Proceedings (付 2014年度支部大会 Proceedings、査読有、No. 124、2015年、pp. 53-54

[学会発表](計16件)

大和高行、テイト版『リア王』とイギリス帝国主義、*鹿児島近代初期英国演劇研究会例会*、2017年

大和高行、ネイハム・テイト作『リア王一代記』とイギリス帝国主義の萌芽、*日本英文学会九州支部第70回大会シンポジウム部門1 イギリス文学「シェイクスピア劇とその材源・改作に見るイギリスの帝国化の諸相」*、2017年

小林潤司、"Have with my knife curved in Roman Letters" 『*タイタス・アンドロニカス*』における文字と帝国、*日本英文学会九州支部第70回大会シンポジウム部門1 イギリス文学「シェイクスピア劇とその材源・改作に見るイギリスの帝国化の諸相」*、2017年

杉浦裕子、ジョージ・グランヴィル『*ヴェニスのユダヤ人*』 再入国とユダヤ人帰化法のはざまの時期のユダヤ人表象、*日本英文学会九州支部第70回大会シンポジウム部門1 イギリス文学「シェイクスピア劇とその材源・改作に見るイギリスの帝国化の諸相」*、2017年

山下孝子、"Never was a war did cease / (Ere bloodash 'd) with such a peace" 『*シンベリン*』における侵害の脅威と回避、身体と国家をめぐる不安、*日本英文学会九州支部第70回大会シンポジウム部門1 イギリス文学「シェイクスピア劇とその材源・改作に見るイギリスの帝国化の諸相」*、2017年

丹羽佐紀、放浪する英雄と処女性への帰帰 『*ペリクリーズ*』とイングランド帝国主義、*日本英文学会九州支部第70回大会シンポジウム部門1 イギリス文学「シェイクスピア劇とその材源・改作に見るイギリスの帝国化の諸相」*、2017年

小林潤司、<書くひと>としてのシェイクスピア、*鹿児島国際大学大学院国際文化研究科第5回公開研究会 島尾敏雄生誕100年記念 <書くひと>の迷宮*、2017年

小林潤司、書評: Simon Palfrey and Emma Smith, *Shakespeare's Dead*、*関西シェイクスピア研究会例会*、2017年

杉浦裕子、ジョージ・グランヴィル『*ヴェニスのユダヤ人*』 再入国とユダヤ人

帰化法のはざまの時期のユダヤ人表象
第 28 回エリザベス朝研究会、2017 年

丹羽佐紀、『ヴェニス商人』における選
択の行為について 運命の女神は不在か
、日本英米文化学会第 35 回大会、2017
年

山下孝子、" My husband thinks that all
is settled now / And this is a happy
ending " 『シンペリン』における危機
とその解決の不穏、第 31 回エリザベス朝研
究会、2017 年

大和高行、ネイハム・テイト作『リア王
一代記』再考 改作のポイントとテクス
トに見られる英国帝国主義の萌芽、九州シ
ェイクスピア研究会第 182 回例会、2017 年

小林潤司、書評: Lukas Erne, *Shakespeare
and the Book Trade*、関西シェイクスピア
研究会例会、2016 年

丹羽佐紀、*The Tempest* における対立とは
若いとの関連性において 、十七世
紀英文学会関西支部第 204 回例会、2016 年

丹羽佐紀、Honor or Defamation in
Chastity and Fertility: Effects of Erotic
Conversation in *Henry VIII*、Martin Ingram
Seminar at Keio University: Honour and
Defamation in Elizabethan Literature、
2016 年

小林潤司、エクフラシスと演劇的想像力
シェイクスピアの場合、日本英文学会第
87 回大会、2015 年

〔図書〕(計 1 件)

鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳)、王
政復古期シェイクスピア改作戯曲選集、九州
大学出版会、査読有、pp. ii + 559、2018 年、

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大和 高行(YAMATO, Takayuki)
鹿児島大学法文教育学域法文学系・教授
研究者番号： 3 0 2 5 3 3 7 1

丹羽 佐紀(NIWA, Saki)
鹿児島大学法文教育学域教育学系・准教授
研究者番号： 4 0 2 4 4 2 7 2

小林 潤司(KOBAYASHI, Junji)
鹿児島国際大学国際文化学部・教授
研究者番号： 1 0 2 5 8 6 7 6

山下 孝子(YAMASHITA, Takako)
鹿児島国際大学経済学部・教授
研究者番号： 7 0 2 2 4 6 2 3

杉浦 裕子(SUGIURA, Yuko)
甲南大学文学部・准教授
研究者番号： 5 0 4 1 2 8 4 6

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()